

<b>2. 事業の概要と成果</b>	
(1) 上位目標	<p>ゴレーク地域の住民の間に、多くの病気は予防できるという意識が定着し、予防に必要な栄養・衛生改善策が実施される。</p> <p><b>達成状況</b>：地域で健康改善に取り組む主体として形成された地域指導者からなる保健委員会による病気予防キャンペーンが実施された。女性たちの間でも、受動的に講習を受ける「母親教室」の次の段階である自主グループの形成に向けて新たな取り組みが始まった。これらの自主的な取り組みを深化させていく段階に来ている。</p>
(2) 事業内容	<b>(ア) 地域の自主的な保健の取り組み支援（保健委員会に焦点）</b>
	<b>【具体的な活動の支援】</b>
	保健に関する小規模共用資料室のルール作りを進め、明文化した。ゴレーク保健委員会でも設置に向けた話し合いを行い、設置場所が決まった。クズカシュコート保健委員会主導でマラリア対策キャンペーンを実施し、病気の早期発見を試みた。
	<b>【委員会が組織として動いていくための支援】</b>
	保健委員会としての活動記録を残すよう助言を続けており、不十分ながら記録が行われるようになった。
	<b>(イ) 地域における健康教育</b>
	<b>【母親教室】</b>
今年度から保健省の新方針として「家族健康アクショングループ」と称する女性グループの形成が打ち出され、保健省から地域保健員を通して伝えられる健康に関する事項を住民に伝える役割が期待されている。当団体はこの保健省の政策の中でも母親教室の実績が生かされるよう、母親教室を修了した女性をメンバーとして選出し、グループの役割の説明や活動への助言などの支援を開始した。	
<b>【学校での健康教育】</b>	
男子校で 20 人の高校生を対象に実践型の応急処置研修を実施し、終了後に救急セットを配布した。また、生徒が書いた健康をテーマとした作文を学校の壁に貼り出す活動を 6 校において継続した。学期末には保健に関する試験を実施した。	
<b>【診療所における健康教育改善】</b>	
診療待ち時間に、時期に合わせた内容の健康教育を行った。	
<b>【村での健康教育】</b>	
診療回数が過剰な患者の家庭を個別訪問し環境改善指導を実施した。	
<b>(ウ) 診療所運営および診療所-地域の連携</b>	
<b>【診療所運営】</b>	
診療業務は大きな問題なく継続しているものの、従来の現地慣習からも難しい女性医療スタッフの確保は続く課題である。	
<b>【診療所と地域保健との連携】</b>	
カルテから得た村ごとの疾患状況を保健委員会に共有し、マラリア対策キャンペーンを実施する運びとなった（上述）。診療所から遠い地域では、出張ワクチン接種を毎月実施した。	
<b>【地域保健員 (CHW)】</b>	
男性 CHW は月例会議を、女性 CHW は四半期会議で集まり、医薬品と医療キットの配布、レポートの回収、継続研修を実施した。	

<p>(3) 達成された効果</p>	<p><b>(ア) 地域の保健委員会の活動促進と組織化について</b></p> <p><b>成果①：委員会による具体的な活動が実施される。</b> クズカシュコートでは、共用資料室の管理・運営のためのルールが決まり、地域の活動の拠点として管理責任を持つように役割分担がされた。マラリア対策キャンペーンは村人から選んだボランティアの協力を得て実施するという初めての取り組みが実現した。これは保健委員会が主導する地域での病気予防の取り組みとしての実績が作れたという点で大きな成果であり、ゴレーク保健委員会にとっていい参考事例となる。</p> <p><b>成果②：委員会が組織としての体制を整える。</b> 委員会の能力向上のためのワークショップは未実施である。定例会が開かれるようになってきているが、達成目標の設定や積極的な活動計画・実施には至っていない。</p> <p><b>(イ) 地域における健康教育について</b></p> <p><b>成果①：病気予防意識の定着と必要な栄養・衛生改善策が実施される。</b> 母親教室の成果を見るための家庭訪問では1回目の訪問で指摘した事項の大半が2回目には改善されており、このような個別訪問が有効であることがわかった。同時にこのような訪問なしでは学習成果も実践に至らないことが多いともいえる。</p> <p><b>成果②：下痢・発熱・軽い外傷などに対する初期・応急処置が可能になる。</b> 学校での学期末の保健テストでは125人の高校生(男性生徒74人、女子生徒51人)が受験し、平均点は63.53点だった。インセンティブの出ない試験であっても参加希望の生徒が多く、試験結果からも基礎知識が身につけている効果が見られた。</p> <p><b>成果③：自主グループの形成に向けた動きが現れる。</b> 家族健康アクショングループ(上述)設立のための、村の地域保健員、グループメンバー候補との協議を行った。目標としていた今期内での女性による自主活動の準備が進んでいる。</p> <p><b>(ウ) 診療所の運営および診療所と地域保健との連携について</b></p> <p><b>成果①：住民への健康意識啓発が進む。</b> 診療所での個人とグループに向けた健康教育を日々継続し、病気予防の重要性を伝えているものの、地域の人口が増加していることもあり、受診者数からは明らかな病気の減少傾向は見られない。</p> <p><b>成果②：診療所と地域保健主体の連携が進む。</b> 診療所からの疾患状況を伝えられた保健委員会によるマラリア対策キャンペーンは、診療所との連携による住民による地域での保健活動の良い事例となった。</p> <p><b>成果③：診療所規模が縮小される。</b> 患者による過度な薬の依存を減らし、診療所の適切な予算規模を維持するためにも、薬の使用量を減らす計画を具体化した。</p>
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>ほぼ予定通り、特に診療所に頼らない地域での病気予防の活動が深化していく基盤(保健委員会や女性グループなど)が固められていく見通し。しかしながら、治安の関係で日本人スタッフの現地入りやスタッフとの直接協議が見込めないこと、また、活動に参加している住民や学校の生徒たちとの交流や活動地のモニタリングが見込めないことで活動の参加者のモチベーションを保ち活動の質を一層高めていくことの困難が想定される。</p>